

モニタリング結果報告書（平成24年度下半期）

施設	相模湖交流センター
指定管理者	アクティオ株式会社
指定期間	H23.4.1 ～ H28.3.31
施設所管課	土地水資源対策課 ()

1 今期の指定管理者の管理運営状況（2～10の結果を踏まえた判定）

B

<判定理由>

ホールの利用率は目標の8割を大幅に上回った一方で、ギャラリーの利用率は目標の65%に10ポイント以上届かなかったが、利用者数は前年同期対比で13.1%増加した。館の管理運営については、利用者にも好評を得ており、節電など経費の節減等により良好な収支状況である。これらのことを総合的に勘案してB判定とした。

- A：提案を上回る取組みを実施し、極めて良好な管理運営状況である。
- B：提案どおりに取組みを実施し、良好な管理運営状況である。
- C：提案どおりに取組みを実施したが、管理運営状況については、一部工夫が必要な面がある。
- D：提案どおりに取組みを実施していない。また、提案どおりに取組みを実施したが、管理運営状況については、抜本的な改善が必要である。

2 月例報告書によるモニタリングの概況

報告月	受理日	確認 通知日	確認方法			指 導 等 の 有 無	備考（指導事項等）
			月 報 確 認	現 場 確 認	電 話 確 認		
10月	11月16日	11月27日	○	—	—	無	
11月	12月11日	12月26日	○	—	—	無	
12月	1月10日	1月21日	○	—	—	無	
1月	2月13日	2月18日	○	—	—	無	
2月	3月12日	3月15日	○	—	—	無	
3月	4月10日	4月23日	○	—	—	無	

3 指定管理者が提案した取組み等の実施状況

	提案内容	実施状況
1	<p>提案内容の要旨を記載 施設を「アクアロジカル・コミュニティーセンター」すなわち、(1)平和・友好・共生のシンボルとして、(2)水源地域の自然の保全をPRする場として、(3)活性化のためのハブ機能として、(4)豊かな自然、美しい水と触れ合う場所及び(5)様々な交流の場を提供する「コミュニケーションセンター」として、多様な自主事業を開催し、サービス向上により利用者の拡大を図る。</p>	<p>○地元利用者が発起人となる「友の会」を発足したことにより、地元の要望を取り入れ、地元参加型の自主事業の開催が可能となるなど、今後の利用率の向上が期待される。 ○地元利用者の協力も得て、ホールについては月2回程度のコンサート等を開催、ギャラリーについても水源地に居ながらにして話題の芸術家にふれられる展示会を開催するなど、自主事業を概ね計画どおりに実施した。 ○主な取組として、ホールにおいては、韓国のアーティストを招いてダム建設の歴史を背景にしたコンサートを開催した。また、ギャラリーにおいては、ダウン症の書家・金澤翔子氏の書展も大きな話題となり、福祉関係者や子育て中の母子等、とりわけダウン症の子を持つ母子が多数参加され、社会的に意義のある書展を開催した。</p> <p>(実績)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・水源地域の自然の保全をPR <ul style="list-style-type: none"> (1)「津軽三味線・民謡2人会」 (2月16日)参加者263人 (2)「相模湖いきもの展」 (10月30日～11月7日)参加者243人 ・活性化 <ul style="list-style-type: none"> (1)「雪村いずみ・猪俣猛コンサート」 (10月28日)参加者164人 (2)「ワンコインコンサート」 <ul style="list-style-type: none"> ア) 歌とピアノとチェロと休日を～ (10月13日)参加者109人 イ) 隣に天才モーツァルト (2月9日)参加者96人 ・豊かな自然、美しい水とふれあい <ul style="list-style-type: none"> (1)「金澤翔子書展」 (1月4日～17日)参加者709人 (2)「金澤翔子揮毫」 (1月5日)参加者381人 (3)「イリーナ・メジューエワピアノリサイタル」 (11月25日)参加者97人 (4)「チェロアンサンブル」 (11月17日)参加者61人 ・多様な交流 <ul style="list-style-type: none"> (1)「小金洋子朗読会」 (11月29日)参加者129人 (2)「サリナ・ジョンス・ジャズヴォーカルコンサート」 (12月23日)参加者175人 (3)「ユンソンチェロリサイタル」 (3月17日)参加者122人 (4)「山形雄子歌声コンサート」 (11月15日)参加者62人 (5)「桂歌丸独演会」(2月28日)参加者307人 (6)「将棋大会」(1月20日)参加者28人

4 収支状況

(単位：千円)

		収入額				支出額	収支差額
		指定管理料	利用料金	その他収入	収入合計		
募集時の積算額 (参考)		80,055	6,300	525	86,880	86,880	0
予算額	前年度	80,470	6,200	525	87,195	87,195	0
	上半期	40,230	3,100	225	43,555	43,555	0
	下半期	40,240	3,100	300	43,640	43,640	0
	今年度	80,055	6,300	525	86,880	86,880	0
	上半期	40,020	3,200	225	43,445	43,445	0
	下半期	40,035	3,100	300	43,435	43,435	0
下半期実績額	10月	6,670	415	13	7,098	6,523	575
	11月	6,670	455	20	7,145	5,346	1,799
	12月	6,670	477	8	7,155	6,119	1,036
	1月	6,670	514	26	7,210	5,781	1,429
	2月	6,670	691	15	7,376	6,954	422
	3月	6,685	508	3	7,196	7,362	▲ 166
	今年度 下半期合計	40,035	3,060	85	43,180	38,085	5,095
	前年度 下半期合計	40,240	2,845	85	43,170	37,531	5,639
	対前年度下半期比			③	0.0%	1.5%	
参考	今年度 上半期合計	40,020	2,960	102	43,082	36,540	6,542
	今年度 合計	80,055	6,020	187	86,262	74,625	11,637

注：千円未満を切捨てているため、合計は一致しない。

収支状況に関する確認等

確認項目	該当	理由等
① 年間予算額における収支差額が0でない	×	該当なし
② 今年度下半期合計欄の収支差額が、収入合計又は支出額のうち低い方の額の1割以上増減がある	○	収支差額が支出額の1割以上の増となっている理由は、日常のメンテナンスによる修繕費の減、また、指定を受けて2年目である状況を勘案し、施設を周知するパンフレットを作成しなかったことによる宣伝費の減など、経費節減に努めたことによる。
③ 収入額又は支出額が前年度下半期比で3割以上増減がある	×	該当なし
④ その他特記事項		当施設の設置目的「水源地域の自然の保全及び活性化を図り、併せて県民に水源地域の自然とのふれあい及び多様な交流活動の場を提供するための施設」は、指定管理者が開催する多様な自主事業により達成されている（「3 指定管理者が提案した取組み等の実施状況」参照）。なお、上記②の収支差額は、自主事業の充実のための経費に充てられている。

<参考>

本施設について県が支出した（する）計画修繕工事・各所営繕工事等に係る修繕費等
基本協定において、県が負担することとしている修繕費等：100万円以上

	金額（千円）	工事箇所・内容（金額）
上半期	0	
下半期	1,123	冷温水ポンプ他分解整備工事1件（冷温水1次ポンプオーバーホール（3台）、冷温水2次ポンプオーバーホール（4台）、空気エア抜き弁交換及び加圧給水ユニット整備）
合計	1,123	

今期に行った資本的な収入及び支出等の状況

	金額（千円）	内容
収入	0	
	0	
	0	
	0	
支出	0	
	0	
	0	
	0	
積立等	0（期首）	
	0（期末）	

- 1 収入：定期預金の取り崩し、借入れによる収入等
- 2 支出：車両の購入、施設の増改築、定期預金の積立等
- 3 積立等：施設の増改築のための積立・借入れ、定期預金等

5 利用状況

	利用者数	前年同期利用者数	前年同期対比増減率
10月	4,098 人	3,721 人	10.1 %
11月	6,064 人	7,195 人	▲ 15.7 %
12月	4,147 人	3,865 人	7.3 %
1月	4,387 人	2,536 人	73.0 %
2月	5,148 人	3,521 人	46.2 %
3月	4,838 人	4,543 人	6.5 %

	目標利用者数	利用者数	前年同期利用者数	目標対比増減率	前年同期対比増減率
今年度上半期計	— 人	24,668 人	22,927 人	— %	7.6 %
今年度下半期計	— 人	28,682 人	25,381 人	— %	13.1 %
今年度合計	— 人	53,350 人	48,308 人	— %	10.5 %

※ ホール及びギャラリーの利用率

目標値 ホール 80% ギャラリー 65%
年間実績 ホール 88.3%（248 / 281） ギャラリー 49.4%（152 / 308）

利用状況に関する確認等

確認項目	該当	理由及び対応策
① 今年度下半期の利用者数が前年同期比で1割以上増減	○	今年度下半期の利用者数は、11月を除き前年同期を上回った。特に1月は、ホールで行われた金澤翔子揮毫やギャラリーで開催された金澤翔子書展などの好評により73%増、また、2月も桂歌丸落語高座や津軽三味線・民謡二人会などの開催により46.2%増となり、前年同期比13.1%の増となった。
② 今年度下半期の利用者数が目標利用者数を下回った	×	該当なし
③ その他特記事項		

6 苦情・要望等の状況

受付件数

下半期報告件数	口頭		文書			合計
	対面	電話	手紙	電子メール	アンケート	
上段：報告件数	0	0	0	0	0	0
下段：報告件数のうち所管課受付件数	(0)	(0)	(0)	(0)	(0)	(0)

(参考)

上半期報告件数	口頭		文書			合計
	対面	電話	手紙	電子メール	アンケート	
上段：報告件数	0	0	0	0	0	0
下段：報告件数のうち所管課受付件数	(0)	(0)	(0)	(0)	(0)	(0)

7 特筆すべき苦情・要望等及び対応状況 該当なし

分野	概要	対応状況
施設・設備		
職員対応		
事業内容		
その他		

8 事故や不祥事等の発生状況

該当なし

発生日	事故等の概要	指定管理者の対応状況	原因・問題点 (指定管理者の課題を含む)

9 随時モニタリングの実施状況

該当なし

実施日 (事故発生日)	経緯・調査内容	調査結果 (指定管理者の課題の有無等を含む)
()		
()		
()		

10 今期の実績を踏まえた評価、改善策等

○今期も地域や観光協会などとの連携を図りながら、音楽を中心に水源地に立地する施設の特徴を活かした事業を実施するなど、水源地域の活性化拠点としての役割を十分に果たしている。このような取組が利用者数の増加に繋がり、前年同期対比で13.1%増え、ホールの利用率も目標を超える87.1%となった事は大いに評価できる。

○引き続き、利用者の満足度が高い事業の実施や利用者への配慮を踏まえた節電等の運営に努めながら、さらなる利用者増や施設の利用率が向上するような取組に期待したい。